



# 第2回 フレッシュせんせい教師力アップ教室

9月9日(金)に「第2回フレッシュせんせい教師力アップ教室」を開催しました。「学習指導」「学級経営・生徒指導」「働き方・仕事の進め方」の3つのテーマの中から、自分が知りたい、学びたいと思ったものを1つ選び、同じ困りや悩みをもった先生方と話し合いました。なぜ学級経営がうまくいかなかったのか、なぜこの子は授業中に立ち歩くようになったのか、選択したテーマの課題文から問題点を探り、様々な視点で解決方法について考えました。

## グループ交流



保護者と一緒に改善策を考えるのいいのでは!?

課題文の中から、指導者として不十分な点や問題点を出し合い、自分たちの経験と重ねながら、解決方法について話し合いました。

## 全体交流



全体指導ばかりでなく、個別指導でそれぞれの目標を決めていくことが大切だという意見がありました...

他のグループの考えを聞くことによって、話し合ったテーマは違っても、学ぶべきものがありました。

学級経営について考えるとき、授業改善という視点で考えていたのはとても良かったです。

## 先輩教員からのアドバイス



先生だけでなく、子どもたちもお互いの困りや課題を知っていることが、認め合える学習集団に...

経験を積んでいる先輩教員から話を聞くことで、自分たちが話し合ったことやこれまでの実践がよりよい方向に向かっていることを確認できたり、グループ交流では出てこなかった新たな視点を学んだりすることができました。

## 参加者からの声

今回の課題について考えていく中で、「この部分の詳細がまだわからない」「ここは何の対策もしていないのではないかな?」など、事例の状況を細かく見ていくことで生まれる疑問があることに気づきました。自分が同じ立場に立った時、もしかしたら対応できていないことに気づけないうままでいるかもしれないと感じるきっかけになり、物事を冷静に見ることの重要性を改めて理解しました。

学級経営に関しては、教師主導で行うという考えがありましたが、グループディスカッションをする中で子ども主導の学級経営の可能性を見いだすことができ、見守る勇気をもって、彼らが欲しているものを与えるのではなく、彼ら自身で課題を解決できるよう、方法を与える指導を行いたいと強く感じました。

保護者とのかかわりの大切さも改めて知りました。褒めること、困っていることを保護者の方と共有し、一緒に解決へ向かうことで、子どもも生きやすく(過ごしやすく)なるので、同じ視点でかかわっていきたい。

授業を行う中で、子どもが聞いてくれないではなく、子どもが主体的に取り組める工夫を行う必要があると感じました。これから、教材研究を行う中でどの子どもも段階的にそれぞれが前向きに取り組める工夫を積極的に行いたいと感じました。

## 第3回 フレッシュせんせい 教師力アップ教室のお知らせ

日時：1月23日(月) 18時30分~20時00分  
 対象：(小・中・総) 任用1~3年目講師  
 内容：明日から使える実践について、考え話し合います。  
 申込：12月中旬頃にお知らせを出します。時期が近づきましたら、管理職の方にお聞きいただき、Formsでお申し込みください。





# 明日から生かせる!! 研究実践



## 読み解く力の育成

～理科を通した読み解く力の育成に視点をおいた授業提案～

研究員：中村 寿樹・中村 洋平



児童生徒は語句の意味を理解し、文章を正しく読むことができているのでしょうか。私たちは日頃から説明や問いの文を読むことが苦手な児童生徒と出会うことがあります。こうした児童生徒には、語句の意味を知り、目的に応じて情報を取り出すことに課題があるのではないのでしょうか。そこで、本年度、読み解く力の中でもテキストから情報を正確に取り出すことを支援する手立ての開発に取り組んでいます。

### 連続型テキスト(文章)を読み解く力を高めるために

#### 〈小学校〉「調べる→使う→修正する」活動を設定

教科書を活用する中で、わからない語句が出てきた場合、GIGA 端末で意味を調べる活動を設定します。また、調べた語句を端末上に蓄積していくことで、語句を使用する際に活用できるようにします。次に、観察・実験や考察の場面で、学習した語句や調べた語句を使って話し合ったり、考えをまとめたりする活動を設定します。授業の終盤では、学んだことをペア、グループ、全体学びで、他者と説明し合う中で、児童は語句が適切に使えているかという視点をもって、互いにアドバイスをし、自分の考えや説明を修正するようにします。この活動によって、学習した語句の意味や使い方をより確かに理解することができ、教科としての学びを深めることにつながります。

「調べる→使う→修正する」活動を通して、理科で学習する語句を理解し使いこなすことにより、新たに出会った文章でも情報を正確に取り出すことができるようになりますと考えます。

#### 〈中学校〉読み解きチャレンジ

NEWSLETTER 9月号  
GIGA 端末活用例(中1理科) Forms クイズ 参照

理科の教科書にある、現象や概念を正確に説明した文には、生徒にとって難解なものがあります。読み解きチャレンジはこれらの文を言い換えた文や説明した文を正しく選択する活動です。教科書の文や文章に繰り返し触れ、目的に応じて情報を取り出す力の向上を図るとともに、教科書の中で読み解けていない文を明らかにします。また、生徒が疑問をもったときに自ら教科書を読み、修正できることも目指します。

出題例

教科書の記載箇所(実験の手順)

1 上澄みとはどこのことか。

2 水溶液を冷やす。

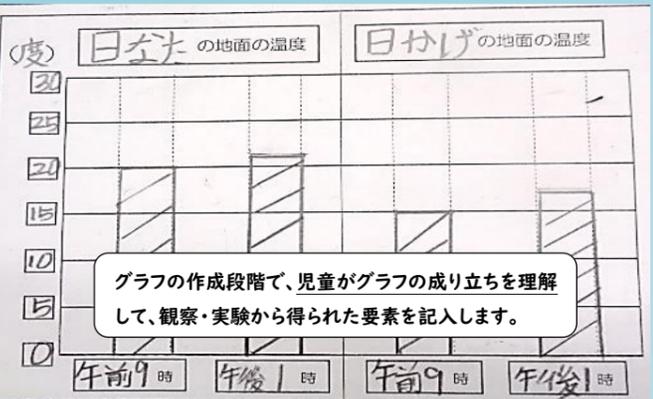
3 2の水溶液を別の試験管に約2 mL にとって冷水で冷やす。溶けざらないものは、上澄みの部分を約2 mL にとって冷水で冷やす。

### 非連続型テキスト(図表等)を読み解く力を高めるために

#### 〈小学校〉要素を明確にし、図表等から情報を取り出す

図表等から情報を取り出せるようにするためには、図表等の成り立ちを理解させることが大切だと考えます。そのために図表等へ書き込む活動を行って、縦軸、横軸などが何を表しているのかを、児童に問いかけながら確かめ、理解させ、観察・実験から得たデータを記入させるようにしました。

こうすることで、児童が図表等から情報を取り出す際に、縦軸・横軸などの図表等の要素の意味を踏まえて解釈し、情報を正確に取り出すことができるようになりますと考えます。



#### 〈中学校〉グラフ読み取りガイド

この取組は「①タイトルを見る②横軸と縦軸を見る③グラフの形を見る」という手順をたどらせ、読み取ったことを文で表すことができるようにするものです。読み取りの手順には汎用性があります。初期のガイドは、グラフの読み取りにつまずいたときに生徒自ら見返すことを想定しており、これを繰り返し活用することにより、グラフ等の読み解く力の育成を目指しています。

初期のガイド

最終、ガイドなしへ

徐々に空欄(増)へ

タイトルを見る: 知りたい情報があるグラフかわかる。( )と、( )の関係。

横軸と縦軸を見る: 横軸→実験で調節した量、縦軸→実験結果。横軸( )、縦軸( )。

グラフの形を見る: 線のような(規則性)や(傾向)を見つける。→グラフの形の「/」と「-」のどこの違いは?

文で表す: (グラフが/)のとき、横軸が大きくなるほど、縦軸は... (グラフが-)のとき、横軸が大きくなると、縦軸は...



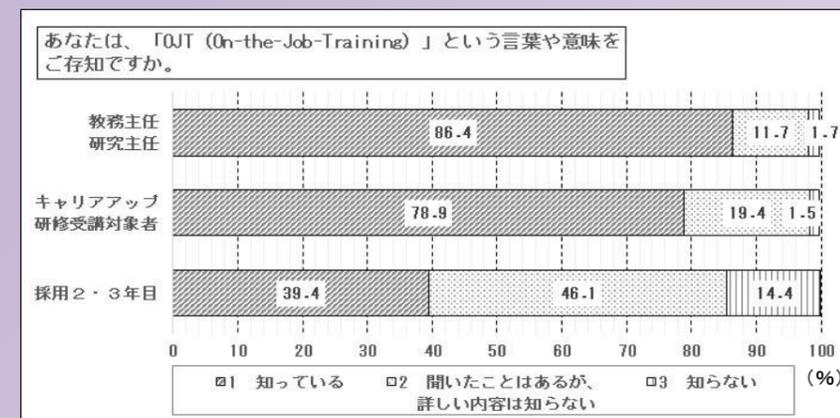
## 「学び続ける教師」を育む日常的なOJTの活性化

～一人一人の教職員の資質・能力と学校の組織力の向上を目指して～

研究員：大上 由加里

Society5.0時代の到来、新型コロナウイルスの流行による生活スタイルの変化等、ここ数年で社会は急激に変化しています。そのような中で、わたしたち教師は、訪れる変化を前向きに受け止め、求められる知識・技能が変わっていくことを意識し、継続的に学び続けていくことが必要です。教師の学びの機会としては、自らの日々の経験や他者から学ぶといった「現場の経験」を重視したスタイルの学びが求められており、各校で日常的なOJTを充実させることが大切であるとされています。(1) 一方、教育現場では、約10年前から教職員の急激な世代交代が進んでおり、優れた教育実践の次代への継承が行われにくくなってきました。また、業務の多忙化が進む中で、どのようにして新たな教師の学びの姿を実現していくかについても課題となっています。

このような状況下で、各校がOJTにどのように取り組まれているのかを知るために、「OJTに関するアンケート」を実施しました。その中で、「あなたは、『OJT (On-the-Job-Training)』という言葉や意味をご存知ですか。」と質問したところ、以下のような結果でした。



ご覧のように、経験年数が低くなるほどOJTの認知度が低くなっています。

京都市のOJT実践ガイドラインでは、「教職員同士が協働する機会や場面(学年会、教科会、分掌業務など)をはじめ校内研究・研修、若手・中堅教員実践道場など、学校教育目標の実現に向けた日々の教育活動を通じた管理職・同僚教職員間での『学び合い高め合う』取組」(2)をOJTと定義しています。

OJTと聞くと、若手育成を目的としたものと捉えられがちですが、経験年数に関わらず、全教職員が教育活動を通して共に考え、学び合い高め合っていくことが大切です。例えば、多くの学校で取り組まれている若手教職員を対象とした研修会で、ミドルリーダーやベテラン教職員が講師を務めたり、校内研究会で異年齢の小グループを作って協議をしたりすることも、お互いに学び合い高め合う機会になります。また、GIGA 端末の扱いが得意な教職員が研修会などを企画し、授業での効果的な使い方を発信する等、教職員一人一人の強みを生かした学び合いもOJTを意識した取組の一つです。現在、様々な学校の取組についてお話を聞かせていただいています。アンケートや教えていただいたことを基に、どのようにすればOJTを有効に機能させることができるのか、研究を進めていきます。

### 自己の学びをみんなの学びに

人材育成の代表的な3つの方法として、OJT、Off-JT(校外研修)、SD(自己啓発)があり、この3つの関連を図ることが大切だとされています。(3)

日頃、学校外の研修会や研究会活動等で学んだことを、校内で発信する機会がありますか。アンケートによると、発信する機会を設けている学校はあまり多くはないようです。忙しくて校外の研修になかなか参加できない方も多いのではないかと思います。学んだことを自分の中に留めるだけでなく、A4・1枚程度の文章にまとめたり、誰かに伝えたりしてアウトプットすることで、自分の学びがより明確になります。また、発信して学びを共有することで、教職員全体の資質・能力の向上にも繋がります。個人の学びを学校全体の学びへと広げてみてはいかがでしょうか。

(1) 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて(審議まとめ)』令和3年11月15日

(2) (3) 京都市教育委員会『京都市OJT実践ガイドライン』平成29年5月

